



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピックアップを用いたディスク装置のアクチュエータ制御装置であって、  
対物レンズを駆動するフォーカスアクチュエータと、  
前記対物レンズが所定の速度で移動するように前記フォーカスアクチュエータの動作を制御するスワイプ制御信号発生手段と、  
前記対物レンズが前記ディスク上に焦点が合うように前記フォーカスアクチュエータの動作を制御するフォーカス制御信号発生手段と、  
前記スワイプ信号発生手段の出力と前記フォーカス制御信号発生手段の出力とを切り替えて出力するスイッチング手段と、  
前記対物レンズの移動速度を検出する速度検出手段と、  
該速度検出手段の出力に基づいて、前記対物レンズの移動速度を低減するように前記フォーカスアクチュエータの動作を制御する速度制御手段と、  
該速度制御手段の出力と前記スイッチング手段の出力とを演算する演算手段と、  
該演算手段の出力に基づいて前記フォーカスアクチュエータを駆動するフォーカスアクチュエータ駆動手段とを、  
有することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項2】 請求項1記載において、  
前記速度検出手段は、前記フォーカスアクチュエータに発生する逆起電圧を検出する逆起電圧検出手段と、帯域制限フィルタとを有することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項3】 請求項2記載において、  
前記逆起電圧検出手段は、第1の抵抗と、第2の抵抗と、第3の抵抗とを有し、  
前記第1の抵抗は前記フォーカスアクチュエータと直列に接続され、前記第2の抵抗と前記第3の抵抗は互いに直列に接続され、かつ、前記フォーカスアクチュエータと前記第1の抵抗に対して、前記第2の抵抗と前記第3の抵抗は並列に接続され、前記フォーカスアクチュエータ、前記第1の抵抗の順である並びに対して、前記第2の抵抗、前記第3の抵抗の順に配されてなるブリッジ回路による電圧検出回路を構成し、  
前記フォーカスアクチュエータ、前記第1の抵抗、前記第2の抵抗、前記第3の抵抗の抵抗値をそれぞれ $R_f$ 、 $R_1$ 、 $R_2$ 、 $R_3$ とした場合、  
 $R_f \geq 10 \cdot R_1$  ..... (1) 式  
 $10 \cdot R_f \leq R_2$  ..... (2) 式  
 $R_f / R_1 \approx R_2 / R_3$  ..... (3) 式  
の関係を満たすことを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項4】 請求項2または3記載において、  
前記帯域制限フィルタは、  
下側のカットオフ周波数を $\omega_1$ 、上側のカットオフ周波

数を $\omega_2$ 、前記スワイプ制御信号発生手段から出力されるスワイプ信号の周波数を $\omega_s$ 、前記フォーカスアクチュエータの主共振周波数を $\omega_{fc}$ とした場合、  
 $\omega_s < \omega_1 < \omega_{fc} < \omega_2$  ..... (4) 式  
の関係となるように制限帯域を決定することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項5】 請求項1乃至4の何れか1つに記載において、  
前記速度制御手段は、前記スワイプ制御信号発生手段の信号が出力されている場合には速度制御信号を出力し、前記スワイプ制御信号発生手段の信号が出力されていない場合には速度制御信号を出力しないことを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項6】 請求項5記載において、  
前記速度制御手段は、前記スワイプ制御信号発生手段の信号が出力に基づいて、前記スワイプ制御信号発生手段の出力レベルが所定範囲外となった場合には、速度制御信号を出力しないことを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項7】 ピックアップを用いたディスク装置のアクチュエータ制御装置であって、  
対物レンズを駆動するトラッキングアクチュエータと、  
前記対物レンズの焦点が所定トラックに位置づくように前記トラッキングアクチュエータを制御するトラッキング制御信号発生手段と、  
前記対物レンズを広範囲で移動させる送り機構と、  
該送り機構を駆動する送りモータと、  
前記対物レンズの焦点が所定トラックに位置づくように前記送りモータを制御する送りモータ制御信号発生手段と、  
前記対物レンズの移動速度を検出する速度検出手段と、  
前記速度検出手段の出力に基づいて前記対物レンズの移動速度を低減するように制御する速度制御手段と、  
前記トラッキング制御信号発生手段の出力と前記速度制御手段の出力とを切り替えて出力するスイッチング手段と、  
該スイッチング手段の出力に基づいて前記トラッキングアクチュエータを駆動するトラッキングアクチュエータ駆動手段と、  
前記送りモータを駆動する送りモータ駆動手段とを、有することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項8】 請求項7記載において、  
前記速度検出手段は、前記トラッキングアクチュエータに発生する逆起電圧を検出する逆起電圧検出手段と、帯域制限フィルタとを有することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項9】 請求項8記載において、  
前記逆起電圧検出手段は、第4の抵抗と、第5の抵抗と、第6の抵抗とを有し、  
前記第4の抵抗は前記トラッキングアクチュエータと直

列に接続され、前記第5の抵抗と前記第6の抵抗は互いに直列に接続され、かつ、前記トラッキングアクチュエータと前記第4の抵抗に対して、前記第5の抵抗と前記第6の抵抗は並列に接続され、前記トラッキングアクチュエータ、前記第4の抵抗の順である並びに対して、前記第5の抵抗、前記第6の抵抗の順に配されてなるブリッジ回路による電圧検出回路を構成し、前記トラッキングアクチュエータ、前記第4の抵抗、前記第5の抵抗、前記第6の抵抗の抵抗値をそれぞれ $R_t$ 、 $R_4$ 、 $R_5$ 、 $R_6$ とした場合、

$$\omega_3 < \omega_{tc} < \omega_4$$

の関係となるように制限帯域を決定することを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項11】 請求項7乃至10の何れか1つに記載において、前記速度制御手段は、前記送りモータ制御信号発生手段の信号が出力され、かつ前記トラッキング制御信号発生手段の信号が出力されていない場合に、速度制御信号を出力し、前記トラッキング制御信号発生手段の信号が出力されている場合には、速度制御信号を出力しないことを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項12】 請求項1乃至11の何れか1つに記載したアクチュエータ制御装置を用いたことを特徴とするディスク装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、アクチュエータ制御装置およびこれを用いた光ディスク装置に係り、特に、外部振動によって生ずる対物レンズのフォーカスおよびトラッキング方向の速度を検出しこれを低減するような機能を備えることにより、外部振動発生時にも安定性に優れたフォーカス引込み動作およびトラッキング引込み動作を可能とするアクチュエータ制御装置、およびこれを用いた光ディスク装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】光ディスク装置では、対物レンズが取付けられたアクチュエータ（アクチュエータの可動部）を、光ディスクの面と垂直な方向および光ディスクの半径方向に駆動することにより、フォーカスおよびトラッキングの制御を行っている。アクチュエータは、スピーカと同様に、ムービングコイル、永久磁石等で構成されており、対物レンズはムービングコイルと一体で動くようになっている。

【0003】この対物レンズおよびムービングコイルは、機械的なばねあるいは磁気的なばねで支持されており、光ディスク装置に外部から振動が加わると対物レンズが振動し、フォーカスおよびトラッキングの引き込み動作等に重大な障害が発生する場合がある。

【0004】外部振動による対物レンズの動きを抑圧して、耐震性能を高める方法としては、加速度センサを用いる方法、状態観測器を用いる方法などがあり、公知例

$$R_t \geq 10 \cdot R_4 \quad \dots\dots (5) \text{式}$$

$$10 \cdot R_t \leq R_5 \quad \dots\dots (6) \text{式}$$

$$R_t / R_4 \leq R_5 / R_6 \quad \dots\dots (7) \text{式}$$

の関係を満たすことを特徴とするアクチュエータ制御装置。

【請求項10】 請求項8または9記載において、前記帯域制限フィルタは、下側のカットオフ周波数を $\omega_3$ 、上側のカットオフ周波数を $\omega_4$ 、前記トラッキングアクチュエータの主共振周波数を $\omega_{tc}$ とした場合、

…… (8) 式

としては、例えば特開平9-147374号公報や、特開平10-134365号公報に開示された技術が挙げられる。

【0005】上記加速度センサを用いる方法では、装置が揺らされている加速度を直接検出して、検出した信号をアクチュエータの駆動信号に加算することで、振動による対物レンズの揺れを低減することができる。また、状態観測器を用いる方法は、観測器中にアクチュエータの等価モデルを持つことで、間接的に対物レンズの揺れを検出して、検出した信号をアクチュエータの駆動信号に加算することで、振動による対物レンズの揺れを低減することができる。何れの手法においても、高い耐震性能を有した制御系を得ることができ、装置の信頼性を向上させることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記の加速度センサを用いる方法は、新たな部品を加えることになるためコスト高となる。また、対物レンズ本体に加速度センサを取り付けることは、スペースや重量等の問題から不可能なことが多い。したがって、装置に取付けた加速度センサで検出した振動と、対物レンズが実際に揺られる振動とは、誤差が生じる。

【0007】一方、状態観測器を用いる方法では、モデル化による誤差が生じるため、量産時には個々の調整が必要となる。

【0008】本発明の目的は、外部振動によって生じる対物レンズのフォーカス方向の速度およびトラッキング方向の速度を直接検出し、各方向の速度を低減するように制御することで、外部振動発生時にも安定性に優れた引込み動作を、安価に行うアクチュエータの制御装置、およびこれを用いた光ディスク装置を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記した目的を達成するために、本発明のアクチュエータの制御装置は、上述のように、外部振動によって生じる対物レンズのフォーカス方向の速度およびトラッキング方向の速度を直接検出し、各速度を低減するように動作する。このため、本発明のアクチュエータの制御装置は、対物レンズを駆動す

るフォーカスアクチュエータと、対物レンズが所定の速度で移動するようにフォーカスアクチュエータの動作を制御するスワイプ制御信号発生手段と、対物レンズがディスク上に焦点が合うようにフォーカスアクチュエータの動作を制御するフォーカス制御信号発生手段と、スワイプ信号発生手段の出力とフォーカス制御信号発生手段の出力とを切り替えて出力するフォーカス用スイッチング手段と、フォーカスアクチュエータに発生する逆起電圧を検出する逆起電圧検出手段と、フォーカス方向の速度を低減するようにフォーカスアクチュエータを制御する速度制御手段と、速度制御手段の出力とフォーカス用スイッチング手段の出力とを演算する手段と、フォーカスアクチュエータを駆動するフォーカスアクチュエータ駆動手段と、フォーカス用帯域制限フィルタと、対物レンズを駆動するトラッキングアクチュエータと、対物レンズの焦点が所定トラックに位置づくようにトラッキングアクチュエータを制御するトラッキング制御信号発生手段と、対物レンズを広範囲で移動させる送り機構と、送り機構を駆動する送りモータと、送りモータを制御する送りモータ制御信号発生手段と、トラッキングアクチュエータに発生する逆起電圧を検出する逆起電圧検出手段と、対物レンズのトラッキング方向の移動速度を低減するように制御する速度制御手段と、トラッキング制御信号発生手段の出力と速度制御手段の出力とを切り替えて出力するトラッキング用スイッチング手段と、トラッキングアクチュエータを駆動するトラッキングアクチュエータ駆動手段と、送りモータを駆動する送りモータ駆動手段と、トラッキング用帯域制限フィルタとを備える。また、アクチュエータのフィードバック制御を行わないフォーカスのスワイプ動作やトラッキングのシーク動作中に限り、対物レンズの速度制御を行えるようにスイッチング手段を操作する。さらに、スワイプ動作中、振動等で対物レンズが可動範囲端にぶつかる可能性がある場合には、速度制御を行わないようにスイッチング手段を操作する。以上の手段を備えることで、外部振動によって生じる対物レンズのフォーカス方向の速度およびトラッキング方向の速度を直接検出して各方向の速度を低減し、フォーカス制御およびトラッキング制御の引込み時の耐震性能を向上することができる。したがって、装置の信頼性を向上することができる。

#### 【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、図面を用いて説明する。図1は、本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置の構成を示す図である。

【0011】図1において、1はディスク、2は対物レンズ、3はフォーカスアクチュエータ、4はトラッキングアクチュエータ、5は送り機構、6はディテクタ、7はフォーカスエラー信号検出手段、8はフォーカス制御信号発生手段、9はフォーカスジャンプ信号発生手段、

10はフォーカススワイプ信号発生手段、11は第1のフォーカス用スイッチング手段、12はフォーカス用逆起電圧検出手段、13はフォーカス用速度制御手段、14は第2のフォーカス用スイッチング手段、15は加算器、16はフォーカスアクチュエータ駆動手段、17はトラッキングエラー信号検出手段、18はトラッキング制御信号発生手段、19は送り制御信号発生手段、20は第1のトラッキング用スイッチング手段、21は第2のトラッキング用スイッチング手段、22はトラッキング用逆起電圧検出手段、23はトラッキング用速度制御手段、24はトラッキングアクチュエータ駆動手段、25は送りモータ駆動手段、26は送りモータ、29はスピンドルモータ、30はディスク回転速度検出器、31はディスク回転制御手段である。

【0012】ここで、フォーカス用速度制御手段13とトラッキング用速度制御手段23は、それぞれ内部にフォーカス用帯域制限フィルタ、トラッキング用帯域制限フィルタを有するものとなっている。

【0013】次に、図1のフォーカス系の各ブロックの動作概要と、各ブロック間の関係について説明する。

【0014】フォーカスアクチュエータ3は、対物レンズ2から出射した光ビームがディスク1の記録面上で焦点を結ぶように、対物レンズ2をディスク1の面と垂直方向に移動させる。ディスク1からの反射光はディテクタ6で検出され、検出された信号は、フォーカスエラー信号検出手段7とトラッキングエラー検出手段17に送られる。

【0015】フォーカスエラー検出手段7は、ディテクタ6から送られた信号に基づいて焦点距離の誤差を検出し、検出した誤差をフォーカスエラー信号としてフォーカス制御信号発生手段8に送る。フォーカス制御信号発生手段8は、フォーカスエラー信号に基づいて焦点誤差を低減するようにフォーカス制御信号を生成して、生成した制御信号を第1のフォーカス用スイッチング手段11に送る。

【0016】また、フォーカスジャンプ信号発生手段9は、ディスク1が記録再生面として複数の層を持つ場合に、ある層から別の層へ焦点を移動するためのフォーカスジャンプ信号を生成する。生成されたジャンプ信号は、第1のフォーカス用スイッチング手段11へ送られる。

【0017】フォーカススワイプ信号発生手段10は、フォーカス制御を引込ませる場合の他、各種パラメータの設定や調整を行う場合に、対物レンズ2をディスク1の面と垂直な方向に所定の範囲で移動させるためのフォーカススワイプ信号を生成する。生成されたスワイプ信号は、第1のフォーカス用スイッチング手段11へ送られる。

【0018】第1のフォーカス用スイッチング手段11は、外部入力信号aに基づいて、送られてきたフォーカ

ス制御信号とフォーカスジャンプ信号とフォーカススイープ信号を択一選択して、選択した信号を加算器15に送る。

【0019】フォーカス用逆起電圧検出手段12は、図4に示す回路によって構成されており、フォーカスアクチュエータ3に生じる逆起電圧を検出して、検出した逆起電圧をフォーカス用速度制御手段13に送る。フォーカス用速度制御手段13は、送られてきた逆起電圧に基づいて、対物レンズ2のディスク1の面と垂直な方向の速度を低減するようなフォーカス速度制御信号を生成し、生成した速度制御信号を第2のフォーカス用スイッチング手段14へ送る。

【0020】第2のフォーカス用スイッチング手段14は、外部入力信号bに基づいて、スイープ動作中の所定期間で速度制御信号を出力し、出力した速度制御信号を加算器15へ送る。

【0021】加算器15は、第1のフォーカス用スイッチング手段11の出力と第2のフォーカス用スイッチング手段14の出力とを加算して、加算信号をフォーカスアクチュエータ駆動手段16に送る。フォーカスアクチュエータ駆動手段16は、加算信号に基づいて、フォーカスアクチュエータ3を駆動する。

【0022】続いて、フォーカス系の各ブロックの動作の詳細について説明する。前述の外部入力信号aは、焦点をディスク面上に位置づけるためのフォーカス制御動作と、焦点を別の層へ位置づけるフォーカスジャンプ動作と、フォーカス引込みや定数設定、調整のためのスイープ動作とを切り替えるための外部信号である。したがって、第1のフォーカス用スイッチング手段11は、各動作に対応してフォーカス制御信号、フォーカスジャンプ信号、フォーカススイープ信号を切り替えて、加算器15に出力する。図2は、外部入力信号（切替信号）aによる、フォーカス制御動作（フィードバック（FB）制御動作）とスイープ動作との切り替え動作の様子を、第1のフォーカス用スイッチング手段11の切り替え動作の1例として示している。

【0023】また、前述の外部入力信号bは、図2に示すように、スイープ動作時で、かつスイープ信号レベルが所定範囲以内である場合にHi、スイープ以外の動作やスイープ動作中でもスイープ信号レベルが所定範囲外である場合にはLoとなる。したがって、第2のフォー

$$V1 = R1 / (R1 + Rf) \cdot (Vin_+ - Vin_- - e) + Vin_- \quad \cdots \cdots (9) \text{式}$$

$$V2 = R2 / (R2 + R3) \cdot (Vin_+ - Vin_-) + Vin_- \quad \cdots \cdots (10) \text{式}$$

上記（9）式、（10）式でそれぞれ表される。

【0028】（9）式、（10）式より、差動アンプ4

$$Vout = V2 - V1 = R1 / (R1 + Rf) \cdot e \quad \cdots \cdots (11) \text{式}$$

上記（11）で表され、Voutを検出することで、逆起電圧eに比例した値が得られる。

【0029】また、フォーカスアクチュエータ3に流れる最大電流の低下を防ぐために、本実施形態では、

カス用スイッチング手段14は、スイープ信号レベルが所定範囲以内であるスイープ動作中だけ、フォーカス速度制御信号を加算器15に出力する。このように速度制御の動作範囲を制限するのは、対物レンズ2が可動範囲の端近くまで移動してストッパーにぶつかってしまうと、誤動作が生じるためである。したがって、第2のフォーカス用スイッチング手段14は、上述のようにスイープ動作中でスイープ信号レベルが所定範囲以内である場合に、速度制御が働くように動作する。ただし、対物レンズ2の可動範囲が十分広く、スイープ動作中に振動が加わっても対物レンズ2がぶつかる可能性がない場合には、速度制御の動作範囲を制限する必要はない。

【0024】フォーカス用逆起電圧検出手段12は、図4に示すようなブリッジ回路によって構成される。図4において、3は前記フォーカスアクチュエータ、41は第1の抵抗、42は第2の抵抗、43は第3の抵抗、44は差動アンプ（差電圧検出手段）である。

【0025】前記フォーカスアクチュエータ3と第1の抵抗41とは直列に接続され、第2の抵抗42と第3の抵抗43とは直列に接続され、また、フォーカスアクチュエータ3と第1の抵抗41の順の並びに対して、第2の抵抗42と第3の抵抗43の順の並びで、素子3、41と素子42、43は並列に接続されている。そして、フォーカスアクチュエータ3と第1の抵抗41の接続点と、差動アンプ44の一方の入力点に接続され、第2の抵抗42と第3の抵抗43の接続点とが、差動アンプ44の他方の入力端に接続されている。

【0026】ここで、フォーカスアクチュエータ3の抵抗値をRf、第1の抵抗41の抵抗値をR1、第2の抵抗42の抵抗値をR2、第3の抵抗43の抵抗値をR3としたとき、

$$Rf / R1 \approx R2 / R3 \quad \cdots \cdots (3) \text{式}$$

上記（3）式の関係を満たすことにより、フォーカスアクチュエータ3に生じる逆起電圧を検出可能にする。

【0027】逆起電圧eが発生した場合のモデルを図5に示す。アクチュエータドライバの出力電圧をVin+、Vin-とし、フォーカスアクチュエータ3と第1の抵抗41の間の電圧をV1とし、第2の抵抗42と第3の抵抗43の間の電圧をV2とすると、V1およびV2は、

4の出力電圧Voutは、

$$Rf \geq 10 \cdot R1 \quad \cdots \cdots (1) \text{式}$$

$$10 \cdot Rf \leq R2 \quad \cdots \cdots (2) \text{式}$$

の関係を満たすように、各素子の定数を設定する。

【0030】フォーカス用速度制御手段13に含まれる

帯域制限フィルタは、図1で示したブロック図のうち、フォーカス速度制御の一巡伝達関数が、図6に示されるような周波数特性となるように設定する。一巡伝達関数の利得は、アクチュエータの主共振周波数と耐震用に設けられた防振脚の主共振周波数では0dB以上となるように設定する。これは、外部振動によって対物レンズ2が最も高速で揺さぶられるのが、アクチュエータと防振脚の主共振周波数であり、この主共振周波数で速度制御を有効に作用させるためである。また、低域側のカットオフ周波数はスイープ信号の周波数より高く設定する。これは、速度制御がスイープ信号にตอบสนองしないようにするためである。また、制御信号のDC成分をカットすることで、逆起検出回路でオフセット電圧が発生した場合にもオフセットの調整が不要となる。高域側のカットオフ周波数は、装置の耐震仕様を考慮して設定する。

【0031】本実施形態においては、フォーカス用速度制御手段13に含まれるフォーカス用帯域制限フィルタは、下側のカットオフ周波数を $\omega_1$ とし、上側のカットオフ周波数を $\omega_2$ とし、前記スイープ制御信号発生手段10から出力されるスイープ信号の周波数を $\omega_s$ とし、前記フォーカスアクチュエータ3の主共振周波数を $\omega_f$ としたとき、

$\omega_s < \omega_1 < \omega_f < \omega_2$  …… (4) 式  
上記(4)式の関係となるようにして、制限帯域を決定している。

【0032】次に、図1のトラッキング系の各ブロックの動作概要と、各ブロック間の関係について説明する。ここで、フォーカス系と同様な動作であるブロックは説明を省略する。

【0033】トラッキングアクチュエータ4は、対物レンズ2をディスク1の半径方向に移動させて、光ビームをディスク上のトラックに位置づける。また、送り機構5は、トラッキングアクチュエータ4の可動範囲より広い範囲で、ディスク1の半径方向にピックアップを移動させる。

【0034】トラッキングエラー信号検出手段17は、ディテクタ6から送られた信号に基づいて、光ビームとトラック中心とのディスク半径方向の誤差を検出し、検出した誤差をトラッキングエラー信号として、トラッキング制御信号発生手段18に出力する。トラッキング制御信号発生手段18は、トラッキングエラー信号に基づいてトラッキング誤差を低減するようにトラッキング制御信号を生成して、生成した制御信号を、第1のトラッキング用スイッチング手段20と送り制御信号発生手段19とに出力する。

【0035】送り制御信号発生手段19は外部入力信号cに基づいて、2種類の動作を行う。すなわち、トラックを追従するトラッキング制御動作の場合には、送り制御信号発生手段19は、トラッキング制御信号に基づいて追従制御信号を生成し、生成した追従制御信号を第2

のトラッキング用スイッチング手段21に出力する。この追従制御信号により送り機構5は、トラッキングアクチュエータ4によって駆動する対物レンズ2を追従するようにピックアップを移動させる。また、比較的多数のトラックを横断するシーク動作の場合には、送り制御信号発生手段19は、移動距離に応じたシーク制御信号を生成し、生成したシーク制御信号を第2のトラッキング用スイッチング手段21に出力する。

【0036】第2のトラッキング用スイッチング手段21は、外部入力信号cに基づいて、追従制御信号とシーク制御信号を選択して、選択した信号を送りモータ駆動手段25に出力する。

【0037】トラッキング用逆起電圧検出手段22は、図4に示したフォーカス用逆起電圧検出手段12と同様な構成をしており、トラッキングアクチュエータ4に生じる逆起電圧を検出して、検出した逆起電圧をトラッキング用速度制御手段23に出力する。トラッキング用速度制御手段23は、入力された逆起電圧に基づいて、対物レンズのディスク半径方向の速度を低減するようなトラッキング速度制御信号を生成し、生成した速度制御信号を第1のトラッキング用スイッチング手段20へ出力する。

【0038】第1のトラッキング用スイッチング手段20は、外部入力信号cに基づいて、前述のトラッキング制御動作の場合は、トラッキング制御信号をトラッキングアクチュエータ駆動手段24に出力し、前述のシーク動作の場合は、速度制御信号をトラッキングアクチュエータ駆動手段24に出力する。

【0039】なお図3は、外部入力信号(切替信号)cによる、トラッキング制御動作(フィードバック(FB)制御動作)とシーク制御動作との切替動作の様子を示している。

【0040】トラッキングアクチュエータ駆動手段24は、出力されてきた信号に基づいて、トラッキングアクチュエータ4を駆動する。

【0041】また、送りモータ駆動手段25は、第2のトラッキング用スイッチング手段21の出力に基づいて、送りモータ26を駆動し、送り機構5を動作させる。

【0042】ここで、トラッキング系の動作を、装置の動作モードに分けて説明する。動作モードは、トラックを追従するトラッキング制御動作と、比較的多数のトラックを横断するシーク動作とに大別できる。

【0043】トラッキング制御動作の場合、トラッキング制御信号を用いて、主に対物レンズ2がトラッキングアクチュエータ4によって動かされる。一方、シーク動作の場合は送り機構5によってピックアップが動かされ、トラッキングアクチュエータ4による対物レンズ2の動作は行わない。このシーク動作中に外部振動によって対物レンズ2が揺らされると、シーク動作が終了して

トラッキング制御動作に移行する際のトラッキング引込み動作が不安定となる。そこで、シーク動作中は逆起検出によるトラッキング速度制御を行う。

【0044】トラッキング用速度制御手段23に含まれる帯域制限フィルタは、フォーカス用速度制御手段13に含まれる帯域制限フィルタとほぼ同様な特性となるように設定する。ただし、トラッキングではスweep動作を行わないため、低域側のカットオフ周波数は制御信号

$$\omega_3 < \omega_{tc} < \omega_4$$

上記(8)式の関係となるようにして、制限帯域を決定している。

【0046】なお、トラッキング用逆起電圧検出手段22は、図示していないが、先にも述べたように、図4に示したフォーカス用逆起電圧検出手段12と同様なブリッジ回路で構成されており、図4におけるフォーカスアクチュエータ3をトラッキングアクチュエータ4に置き換えたものとなっている。ここで、図示しないが、トラッキング用逆起電圧検出手段22において、図4のフォーカスアクチュエータ3をトラッキングアクチュエータ4とし、図4の第1の抵抗41を第4の抵抗とし、図4の第2の抵抗42を第5の抵抗とし、図4の第3の抵抗43を第6の抵抗として、それぞれ置き換え、トラッキングアクチュエータ4の抵抗値を $R_t$ 、第4の抵抗値を $R_4$ 、第5の抵抗値を $R_5$ 、第6の抵抗値を $R_6$ としたとき、本実施形態では、

$$R_t \geq 10 \cdot R_4 \quad \text{…… (5) 式}$$

$$10 \cdot R_t \leq R_5 \quad \text{…… (6) 式}$$

$$R_t / R_4 \leq R_5 / R_6 \quad \text{…… (7) 式}$$

上記(5)式、(6)式、(7)式の関係を満たすようになっている。

【0047】最後に、ディスクの回転制御について説明する。スピンドルモータ29はディスク1を回転させ、ディスク回転速度検出器30は回転しているディスクの回転周期を検出する。検出したディスクの回転周期はディスク回転制御手段31に送られる。ディスク回転制御手段31は、ディスクの回転周期に基づいて、所定の回転周期でディスクが回るように制御し、スピンドルモータ29を駆動する。

【0048】以上のように本実施形態においては、フォーカスアクチュエータおよびトラッキングアクチュエータで発生する逆起電圧を用いて、対物レンズのフォーカス方向およびトラッキング方向の速度を検出し、検出した速度を低減するように両アクチュエータを制御することにより、フォーカス制御およびトラッキング制御開始時の引込み動作に関して、外部振動発生時にも安定性に優れた動作を、安価に行うことができる。また、各速度制御の動作タイミングと制御帯域の設定を行うことで、動作の安定化を実現できる。従って、安価に装置の信頼性を向上することができる。

【0049】なお、上述した実施形態においては、速度

のDC成分をカットするように設定する。高域側のカットオフ周波数は、装置の耐震仕様を考慮して仕様値の上限近傍に設定する。

【0045】本実施形態では、トラッキング用速度制御手段23に含まれるトラッキング用帯域制限フィルタは、下側のカットオフ周波数を $\omega_3$ とし、上側のカットオフ周波数を $\omega_4$ とし、トラッキングアクチュエータ4の主共振周波数を $\omega_{tc}$ とした場合、

$$\text{…… (8) 式}$$

制御は、フォーカス引込みのためのスweep動作時と、各種パラメータ設定や調整のためのスweep動作とを区別せずに動作しているが、本発明はこれに限るものではない。設定や調整のためのスweep動作には速度制御を動作させない、あるいはスイッチング手段14によって出力しないようにしても、同様な効果が得られる。

【0050】

【発明の効果】以上述べたように本発明により、所期の目的を達成することができる。すなわち、フォーカスアクチュエータおよびトラッキングアクチュエータで発生する逆起電圧を用いて、対物レンズのフォーカス方向およびトラッキング方向の速度を検出し、検出した速度を低減するように両アクチュエータに対して速度制御を行うことにより、フォーカス制御およびトラッキング制御開始時の引込み動作に関して、外部振動発生時にも安定性に優れた動作を、安価に行うことができる。また、各速度制御の動作タイミングと制御帯域の設定を行うことで、動作の安定化を実現できる。従って、安価に装置の信頼性を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置における、フォーカス制御動作（フィードバック制御動作）とスweep動作の切り替えの様子を示す説明図である。

【図3】本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置における、トラッキング制御動作（フィードバック制御動作）とシーク制御動作の切り替えの様子を示す説明図である。

【図4】本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置における、フォーカス用逆起電圧検出手段の構成例を示す回路図である。

【図5】図5において、逆起電圧が発生した場合のモデルを示す説明図である。

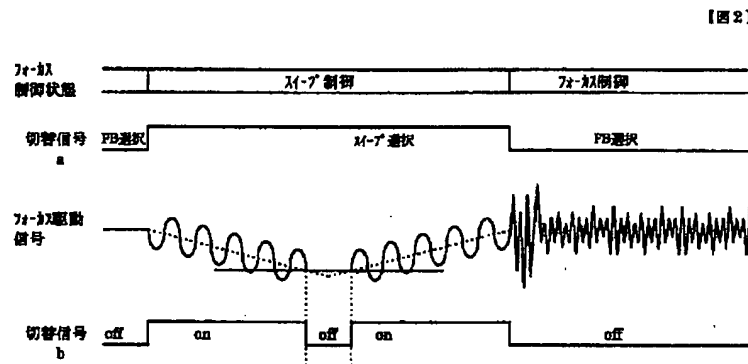
【図6】本発明の一実施形態に係る光ディスク装置のアクチュエータ制御装置における、フォーカス用速度制御手段に含まれるフォーカス用帯域制限フィルタの周波数特性を示す説明図である。

【符号の説明】

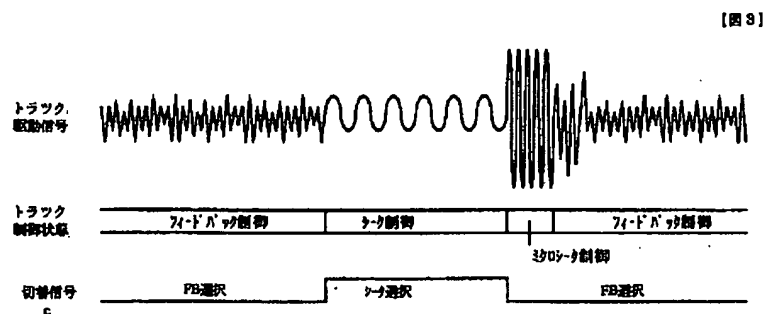
1 ディスク

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 2 対物レンズ              | 16 フォーカスアクチュエータ駆動手段   |
| 3 フォーカスアクチュエータ       | 17 トラッキングエラー信号検出手段    |
| 4 トラッキングアクチュエータ      | 18 トラッキング制御信号発生手段     |
| 5 送り機構               | 19 送り制御信号発生手段         |
| 7 フォーカスエラー信号検出手段     | 20 第1のトラッキング用スイッチング手段 |
| 8 フォーカス制御信号発生手段      | 21 第2のトラッキング用スイッチング手段 |
| 10 フォーカススイープ信号発生手段   | 22 トラッキング用逆起電圧検出手段    |
| 11 第1のフォーカス用スイッチング手段 | 23 トラッキング用速度制御手段      |
| 12 フォーカス用逆起電圧検出手段    | 24 トラッキングアクチュエータ駆動手段  |
| 13 フォーカス用速度制御手段      | 25 送りモータ駆動手段          |
| 14 第2のフォーカス用スイッチング手段 | 26 送りモータ              |
| 15 加算器               |                       |

【図2】



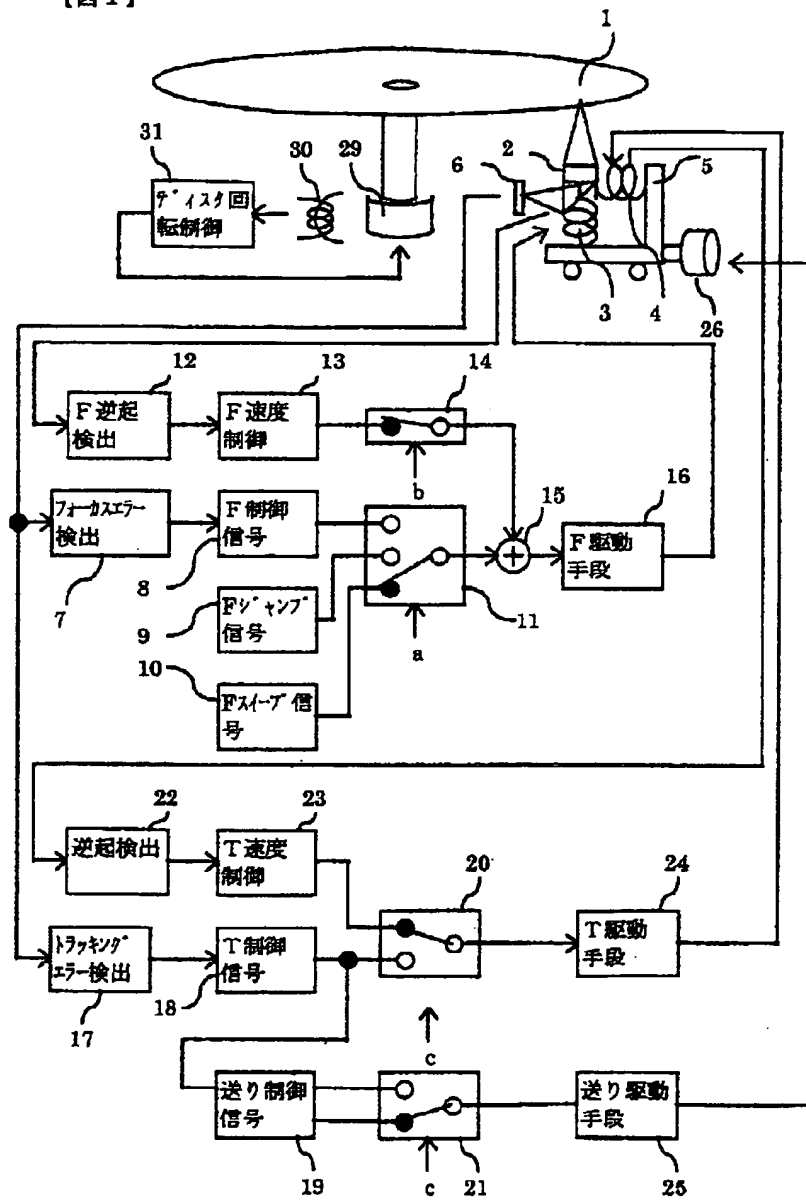
【図3】





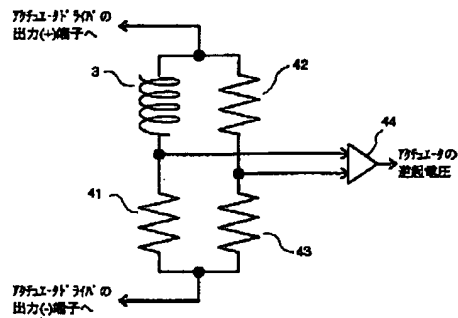
【図1】

【図1】

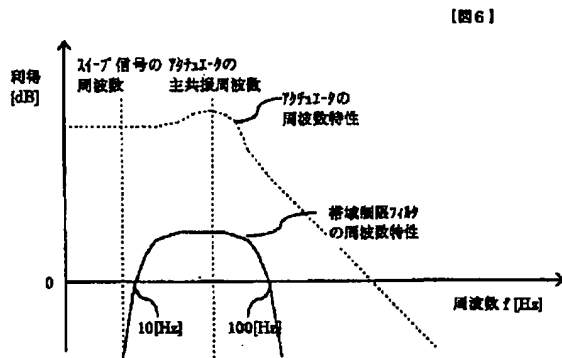


【図 4】

【図 4】

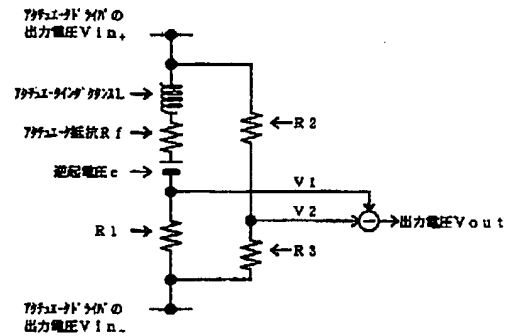


【図 6】



【図 5】

【図 5】



フロントページの続き

(72)発明者 小野 裕明  
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株  
式会社日立製作所デジタルメディア開発本  
部内

Fターム(参考) 5D117 BB06 DD03 EE03 EE20 FF07  
FF17 FF19 FF26 FX06 FX07  
GG02 GG06